

## 第4回町田市市民センター等のあり方検討委員会 議事録（要旨）

日時： 2020年11月19日（木） 16時00分～18時00分  
場所： 町田市市庁舎3階 第2委員会室  
出席者： 磯崎委員、前田委員、安達委員、大倉委員、神山委員、栗原委員、竹島委員、實方委員  
（欠席：佐野委員）  
事務局： 樋口市民部長、中村市民総務課長  
（市民総務課）松井、勝野  
オブザーバー： 中坪市民協働推進課長、山之内南市民センター長、坂上鶴川市民センター長

- 次第：
- 1 第3回検討委員会の振り返り
  - 2 報告
    - ・ ワークショップ等の実施状況について【資料1】
  - 3 議事
    - （1）素案について【資料2】【資料3】
    - （2）市民意見募集の実施について【資料4】
  - 4 その他

資料：

- ・ 資料1：ワークショップ・インタビュー等の取り組み状況
- ・ 資料2：「（仮称）町田市市民センター等の未来ビジョン」構成イメージ
- ・ 資料3：（仮称）町田市市民センター等の未来ビジョン素案（案）
- ・ 資料4：市民意見募集配布資料一式

### 1 第3回検討委員会の振り返り

- 事務局より、第3回の議事録案を確認しつつ、内容を振り返る。
- 委員より質疑なし。
- 委員長より議事録案を、確定版にすると宣言。

### 2 報告

○事務局より、第4回検討委員会までに実施したワークショップなどの実施状況および結果について報告。

（質疑・意見）

#### ■委員

小山市民センターの意見の中で、相模原市にあるような複合的な施設にしてほしいというものがあるが、どのような施設について述べているのだろうか。

#### ■事務局

橋本や南大沢の地名が挙がっていた。橋本には「杜のホールはしもと」という施設がある。低層階にスーパー等が入っていて、上層階にはコミュニティホールや小さめの音楽室や会議室が入っている。南大沢には、駅前に法務局が入っている施設（フレスコ南大沢）があり、市役所の支所やホール

等も併設している。そうしたものをイメージされていたのではないか。

■委員

橋本の杜のホールには行ったことがある。その意見を述べられた方は、市民センターなどよりも少し広い施設でいろいろなことができるイメージを持っていたのではないか。

■事務局

小山、小山ヶ丘地域は、町田市全体の人口がピークを迎えたといわれている中で、なお人口が増加している地域の一つである。地域の人口規模は3万人を超えており、そうした人口規模に見合った規模の施設・内容が欲しいという意見につながると思われる。

■委員

ネットワーク環境を整備することでコミュニケーションに関する問題は解決すると書いてあるが、それはデータや情報の伝達であって、本当の意味でのコミュニケーションとはなっていない。人間はコミュニケーションにおいて相対することでいろいろな情報を感知し、感知した情報を基にいろいろな判断をする。あくまで遠距離に関しては一つの補完にはなるが、近距離の場合には集まるといっても大切な手段である。特に地域コミュニケーションについては、集まれる場所が重要である。そこを押さえた上で、ネットワーク環境などを整備することが必要である。

非常に参考になったのはキーワードだ。ネットワーク環境の整備、歩いていける場所、カフェ、交通の便、インフラの整備、親子で遊べる場所、できれば夜間で企業が使える場所といったキーワードを集めてみると、一つのセンターに近いものとなるのではないか。この間見学したポプリホールは求めているものに近い形のものだった。普通の市民センターとは異なる運用形態で、地域と民間が複合して作るといいものができると思った。

■委員長

きめ細かくみていただいた。いろいろなニーズを見ていくと重複もあり、求めているものができる。デジタル環境については、リアルなものも大事だという方向をこの委員会で確認している。

■委員

音楽を行っている人にとっては、町田市は音楽に関するインフラのレベルが低い。ポプリホールなどは民間を入れているので、ある程度カバーできていると思われるが、市の感性で創った施設はレベルが低いかもしれない。その点を含めて12月に実証実験を行ってみようと考えている。

■委員長

音楽活動ができるインフラとはどういったものか。

■委員

演奏する立場からすると、スタジオや防音装置、ZOOM環境では、人の声や映像とともに音域の広さが伝わる必要がある。拾える音域を広げると、どういったことが伝えることができるのかを小川高校とコミュニティセンターの間で12月に実証実験してみようと思っている。また、一般的に言われているZOOM環境の中で一番良いと考えられる条件下で、どのような効果があるのか体感してみようと思っている。ただし、機材と人材の両方が必要となるので、そうしたベストの環境をどこでも整備できる訳ではない。

■委員

音楽についてだが、利用する人がどれだけ多いのか、それだけのクオリティの高さを要求する人

がどれだけあるのか。最終的には予算の中に入れ込むことが必要となるので、費用対効果がどれだけあるのか、それによって市民の音楽愛好家にとってどれだけ喜ばれるのかといった点を考えていけないといけない。

#### ■事務局

市民ホールやポプリホールというところは、興行を想定しているため、機材等も相応のものが準備されている。一方、市民センターなどは市民利用を想定しており、1980年代に整備された施設であるので、そこまで高いレベルが要求されていた訳ではなかったのかと思う。

#### ■委員

ZOOM 環境については、今後数年で発達していくと考えられる。小川高校で環境整備にかかった費用は30～35万円くらいであり、その程度で揃えられるのであれば、整備する価値はあるのではないか。ただし、それを各市民センターで整備するのかというと、それはやりすぎではないかという議論になる。例えば市でそういった機材を保有して、各センターに貸出しをする形にすれば、ある程度有効な活用ができると思われる。

### 3 議事

#### (1) 素案について

○事務局より、資料2「(仮称)町田市市民センター等の未来ビジョン」構成イメージ」、資料3「(仮称)町田市市民センター等の未来ビジョン素案(案)」により説明を行った。

(質疑・意見)

#### ■委員

今回の4つの柱はわかりやすいかもしれないが、「サービス・利便性」をチェンジ、「コスト・民間協働」をチェンジといったことが日本語として少しわかりにくい。サービス・利便性は向上、民間協働は推進ではないか。それぞれでチェンジという言葉の意味が異なる。検討されるときにどのようになされたのかお聞きしたい。

#### ■事務局

わかりやすさ、印象に残るという点をイメージしたものである。それぞれの項目のあり方を変えていくということを意図しているが、日本語としてよりよい表現があるのではないかということは認識している。より伝わるということを優先したというのが検討の経緯である。

#### ■委員長

利便性を向上させるということ、チェンジという言葉で表したということであった。今まではサービスレベルが低かったということではないと思うが、今まで以上にサービスレベルを向上させるという市の姿勢を示しているということが感じられる。

#### ■委員

17ページに図解しているところの、チェンジの真下に簡潔な説明があるが、この説明を読めばわかりやすい。チェンジの言葉が一人歩きするとわかりづらい。両方セットになっていればわかりやすいと思う。

#### ■委員

まとめの段階になって難しくなってきた。我々にとって重要なことは、ベストのものではなく、

実現可能であること、求めているものと一致していること。学術論文ではないので、住民のニーズ、実施する人のレベルの中で何を重視するのかを踏まえないと言葉遊びになってしまう。窓口の問題にしても、実現する方法等が文書の裏に明記されていることが必要である。

今回のここまでのイメージは方向性を示しているのはよいが、例えば、窓口の利便性についても高齢者から若い人までいろいろなレベルの人がいるので、それぞれ対応の方法は異なる。フレームとしては非常によくできているが、実現に落としていく段階となると、実行する人や利用する人のレベル・要件等がわかっていて、なおかつ、その内容で実現できるものだろうかと思う。

例えばデジタル化への対応でも、デジタルを利用する世の中がどうなっているのかを把握する必要がある。町田ではどういう人が使おうとしているのか。我々の世代のようにデジタルに弱い人がいて、もう一つはパソコン世代の人がいて、さらに若い世代ではパソコンは使わないがスマホは使いこなす人がいる。この3つが共存している中で、デジタル化のどこに目標を置くのか。言葉ではデジタル化というのはわかるが、どのレベルで実現していくのかによって、多様な住民が求めているものと一致しているかどうかが明らかになり、他方で、一致していないところに対してはどのように補完していくのかということがあって、初めて機能する。

■委員長

具体的な裏付けがあるのかどうか、ビジョンの中に裏付けを書けるのであれば書いておいた方がよいし、裏付けがないとかなり違ったものになるとの話だった。

■事務局

基本的にビジョンの考え方は基本計画がベースになっている。

■委員

一つの方向、フレームとしては提示ができたと思われる。

■委員長

今回の計画の下に実行計画が作られるということか。

■事務局

このビジョンでは一部実行する事業も書き込んでおり、さらに実行計画を作ることではないが、先述のように指標を示すことや成果を評価することで、結果として実行計画の性格も持つものとなっている。

■委員長

確認をしたい。このビジョンは市としてまとめるものだと思うが、この委員会はビジョンに対してどのように関わりを持つのか。内容は今までの審議を踏まえたものとなっており、それを実務的なフィルターを通し、市の計画の中に位置付けるということになるのか。この委員会としては骨格を作るところまで対応するということがよいか。

■事務局

委員長のご指摘の通りと考えている。

■委員

目次が語っている。この範囲内での提言、まとめということになる。

■委員長

骨格までこの委員会で検討するということである。

## ■委員長

資料2「(仮称)町田市市民センター等の未来ビジョン」構成イメージ」をご覧いただきたい。構成イメージである。これについてご意見等はないか。

## ■委員

目次のところに、施設総量を圧縮しつつ、施設重視から機能重視に転換し、新たな価値を創り出すとある。これはどのような意味合い、考え方なのか。もう一つ、窓口へ来庁することなくより簡単に身近なところで行政手続きが可能になると書いてあるが、マイナンバーでできるのは今のところ住民票と印鑑証明だけではないか。結局、謄本などは窓口にいかなければいけないということか。八王子の住民は戸籍謄本まで郵便局で取得できるようであるが、そのような考えはないのか。また、市民の認知度向上とあるが、近所の学生に聞いたところ、市民センターの学割ということさえ知らなかった。市はどのようにPRや認知度向上を図ろうとしているのか。

## ■事務局

「施設重視から機能重視に転換し、新たな価値を創り出す」という点については、第1回検討委員会の内容に遡る。まず、町田市の施設再編計画の中で、今までハコモノが重視されていた時代があったが、その見直しを行い、建物と機能を分けて、機能のあり方を考える。次に、再編計画では、窓口機能、集会機能、学校機能や図書館機能といった機能について、それぞれのあるべき姿を検討する。以上を踏まえて、例えば複合化などによって、地域コミュニティの発展にもつながる新たな価値を生み出すということである。単純に老朽化により更新費用が多く必要となるので施設総量を削減するといった負の側面だけではなく、そういった視点を加えることで、新たな価値を創っていくとする意味が込められている。

次の質問のデジタル化による身近な場所での行政手続きが可能になるという点に関しては、現在マイナンバーカードがあれば住民票、印鑑証明、戸籍についてもコンビニで取得することができるが、それとは別にここではもっと先のことを書いている。国が推進しているオンライン化とは、家でも手続きができるようにするものである。また、情報連携とあって、行政機関の間で情報連携をすることによって、これまで必要とされていた証明書を添付しなくてもよいということになってくる。ゆくゆくは、そもそも証明書を発行するというのも無くなってくると考えられる。

八王子の例を挙げられていたが、確かに一つのやり方である。八王子ではコンビニ交付を行っていないと思うが、それぞれの自治体によって、どういう方法でサービスを向上させていくかは異なっており、町田市では現在のところは郵便局での交付は考えていない。

認知度の向上については、地域の声を聞くと学割も知らないというご意見が多かった。2020年4月の利用細則改正の中で、営利目的も完全にダメということではなく、また飲食についても相談の上ということにしている。タイミングがコロナの真最中で、施設も閉鎖していた中であつたが、PR不足という点はまさにその通りであり、ビジョンの中でその点を特出ししている。

## ■委員長

資料3「(仮称)町田市市民センター等の未来ビジョン素案(案)」で、まず1章、2章について意見交換をさせていただきたい。

## ■委員

行政窓口のデジタル化について注意してもらいたいのは、デジタル化ができるということであつ

て、利用できる・利用したくなるということとは異なる。デジタル化の裏では教育や教育する場所を設けないと、置いてきぼりの人が出てくる。一人暮らしのお年寄りにとっては大きなメリットがあるが、そういう人はデジタルが苦手な人たちなので、そういう人も使えるように教えてあげることが必要である。

懸念されるのは、セキュリティ面等でのリスクである。そうしたところのバックアップをしっかりと行い、安心して利用できるようにすることが重要である。マイナンバーカードについても、それを落としてしまったりすると全て消えてしまうといったことがあってはいけない。

#### ■委員長

確かに、できることと、行う、行いたくなるということは違う。根付くということも違う。以上、1章・2章についてよろしければ、3章についてご意見をいただきたい。

#### ■委員

17ページの中の「コスト・民間協働をチェンジ」のところで、これだけ見ると効率的な管理が行われているという書き方となっているが、後の方もみると魅力的な、効果的などという言葉が並んでおり、効率的だけでよいのかという点が疑問である。他の指標についてはアウトカムの指標となっているが、この指標だけインプットの指標となっており、少々違和感がある。

#### ■事務局

効率的なところだけで良いのかという点については、もう少し他の要素を書き込んでいきたい。管理運営の施設という点については、現在町田市については全て直営となっているところを変えていくという思いが入っている。

#### ■委員

施設にいろいろな機能を入れれば入れるほど、複数の指定管理者を入れる必要が出てくる。そうならば、施設単位の数値で良いのか。

29ページのスケジュールでは、2022年度から民間の管理運営の導入となっている。2021年度には民間の募集が行われるということになるが、サービスの利便性については2021年度から検討が始まるとなっている。それぞれの施設によって状況は異なるとしても、それぞれの施設のサービスがはっきりしない中で、民間事業者の募集が行われるという点には違和感がある。

#### ■事務局

施設の魅力の部分については、指定管理者によって変わってくるという点もあるが、それぞれの地域性の中で魅力向上の方策が取れる部分もあるのではないかと考えた。できるところから始めるという思いであった。

#### ■委員

今のスケジュールでは、来年度募集手続きに入らないと2022年度にはサービスが開始できないと思われる。今の段階で「サービス・利便性」「ソフト・魅力」といったところがもう少し具体的に見えていないと、民間事業者の募集をかけるのが難しいと感じた。

#### ■委員長

2022年度に民間事業者を募集するとなると、2021年度にしっかりと検討しなくてはいけないという理解をしたい。

#### ■委員

市民意見募集という段階があるが、資料3「(仮称)町田市市民センター等の未来ビジョン素案(案)」を公表して意見を伺うということでのよろしいか。指標の現状が記載されていないが。

■事務局

最新の数値を整理して記載する。

■委員

現状の値は間に合わなければ昨年度でも構わないが、目標として、何年度にはどの位ということを出さないのか。

■事務局

このビジョンの中で示すというイメージは持っていない。町田市では各部・各課での仕事目標というのがあり、その中で、どこまでの数値を目指すかというものを示していきたいと考えている。

■委員長

17ページの将来像「(仮)みなが集い、快適・便利で、豊かに暮らす地域の拠点」について委員のご意見を伺いたい。

■委員

財政が困難となってくる中で、ハコモノを少なくして、ソフト系を重視して満足度を高めるという構成は良いと思う。複合化や機能の集約という言葉が出てくるが、そうした時の大前提としては町田市の縦割りをいかに崩していくかということが背景にないと実現は難しい。

スケジュールを見たときに、実行に移す段階や管理責任を持って行っていく段階で縦割りが崩れてくる。それをいつの段階で行うのか。現状のままで縦割りのままで、市民部の持っている施設に関してこのようなものを目指すのか。

■委員長

施設については縮小や統合といったものをこの中に書き込むのか、縦割りを止めて、市民の利便性につながるような改革、チェンジを考えているのかどうか。

■事務局

施設の再編を行うという計画が立てられている中で、施設の集約化や施設の管理等の経緯の中で議論が進んでいる。そういった意味では施設の集約、総量を減らしていくという認識である。

縦割りにについては、例として、今回の素案について、学校との集約化がメインとなってくると思われるが、学校教育部とも情報を共有して皆様に提示をしているところである。縦割りという点については委員会、ワークショップでも指摘されているところであるが、学校教育部とも連携を図りながら行っている。もう一つでは、全庁あげて公共施設の再編に取り組んでいるところであるが、副市長が座長となっている委員会が定期的開催されている中で、情報共有を行っている。そうした委員会の中でもそれぞれ個別に検討を進めてはいけないということが議論となっていたところである。それ以外でも縦割りを無くす方向で進んでいる状況である。

■委員

キーワードについて、個人的には楽しいという言葉、つながりや交流という言葉が入っていた方がよいかと思った。

■委員長

楽しさという方がわかりやすい。つながり、交流というのも活かせる気がする。

■委員

施設を知らない人がいるということであるが、現在は情報が溢れている。欲しい情報は自ら探していく。情報は欲しい人は、どんどん能動的に探していく。市民センターのあり方についても、魅力ある、行きたくなるといった市民センターにすれば黙っていても人は来る。

■委員長

確かに情報を出すことが大事なのではなく、情報を取りに行きたくなるような施設にしていくことが大事である。

■委員

はっきり言うと20年先のことはわからない。現状把握していることを基本に、マイナンバーカードで何でもできるようになれば、施設としては縮小していく方向になるのではないか。もう一点、外郭団体といった指定管理者に移行していく方向があるのか。そうなった場合の市民センターの使い方は大きく変わってくるのではないか。そうしたことを踏まえて市としてどうしていくのか、お聞かせ願いたい。

■委員長

指定管理者を使うことによって、市民センターがどう変わっていくと考えているのかということか。

■事務局

指定管理者制度を導入することによりコストを削減することだけでなく、施設の魅力を増すといった要素も加わってくると思われる。そうしたことを前提に市民センターの運営を考えていきたい。また、指定管理者任せではなく、地域の魅力を考え、地域の皆様の考えをお聞かせいただきながら、運営していくことが大事だと考えている。

■委員

鶴川のポプリホールをイメージしたとき、楽しく快適で便利で豊かに暮らす地域の拠点として、集いitくなるような場所といったものがセンターとなれば、という思いがある。主体的に集まってもらうようにはいけなない。

■委員

資料4「市民意見募集配布資料一式」の配布場所などが気になる。町田市のホームページとあるが、SNSなどでの告知はしないのか。配布場所も若い人が使っている公共施設や学校などに置いてもよいのではないか。

■委員長

配布場所は駅などもあるかもしれない。

■事務局

周知の方法として市でもSNSは使っているが、市の他の情報も多く発信している。載せられるかどうかは確認してみたい。できれば幅広く市民の人に知ってもらいたいと考えている。配布場所については、市の公共施設については問題ないが、それ以外となると相手方の協力が得られるかどうかという課題があるので、少し探してみたい。

■委員

豊かに暮らすというと、物質的な豊かさに捉えられるかもしれないので、楽しく暮らせるという



方がよいのではないか。

■委員長

豊かに暮らすというのは少し曖昧かもしれない。市民センターという名前もよいのかという点も、事務局とは打ち合わせをしていたところであったが、次回までに考えていただきたい。

■委員

みんなで作りあげるということだが、図画工作の「作る」ではなく、「創る」とした方がよいのではないか。

■委員長

27ページについてということでよいか。

■委員

17ページのチェンジとそれ以降の表現との整合性は検討した方がよい。

■委員長

市民センターの名称についてもお考えいただきたい。市民意見募集の予定について説明いただきたい。

## (2) 市民意見募集の実施について

○事務局より、資料4「市民意見募集配布資料一式」により説明を行った。

(質疑・意見)

■委員

市民センターのワークショップはどういう経路で市民に告知をしたのか。

■事務局

各施設の建物の中でチラシを配布した。市民センター祭りの実行委員、市民センターの運営委員、利用者の方にも直接お声がけをした。この先、これから実施するところもあり、引き続きお声がけをしている。市民意見募集の中で、市民センターの中で告知をしっかりしていきたい。

■委員長

多角的なご意見をいただいた。以上で終わりたい。

## 4 その他

○特になし。

以上